

評価を伴う作業の展示

10:00～16:00

講義室2

説明会：12:30～14:50

担当者：(株)紀州ライフコーディネートサービス 寺本 千秋

担当者：千葉県立保健医療大学 竹下 安希子

○展示1について

作業療法は「身体又は精神に障害のある者、またはそれが予測される者に対し、その主体的な生活の獲得を図るため、諸機能の回復、維持および開発を促す作業活動を用いて治療、指導および援助を行うことをいう」と定義しています（日本作業療法士協会）。

作業療法の中で認知障害を評価するとき、HDSRやMMSEあるいはコース立方体テストを当然のように行います。作業療法でありながら、作業を使用した評価はなかなかみあたりません。作業療法士は作業を使った評価ができるはずです。

アメリカではAllenという人が1980年代から皮細工を使用して認知レベルを測定しています。作業である皮細工の工程から測定された認知レベルで日常生活を予測し、いろいろな作業の適応について知ることができます。また、適応のある各種作業が簡単に手に入ります。それぞれの作業について分析や評価もできるよう工夫されています。

Allenらの活動の初期は統合失調症が主なる対象でしたが、現在、高齢者や整形疾患・呼吸器疾患などにもその対象を広げています。

日本でAllenの革細工が、どのように使われているかを説明いたします。また評価と作業活動の展示を行います。

○展示2について

日本でも作業は評価や治療として使用されています。現在、その評価は作業療法士の経験にたよるところが大きいようです。今回、人が作業を取り行う時、意欲のでない時点から社会参加に至るまでの経過の提示をし、「押し花」という作業を通じ作業療法についてご紹介いたします。

作業療法の作業とは、自分の生活や人生の意味、あるいは人生の価値を見出し、自己実現をめざすものです。「花」は癒しや愛情のシンボルと言っても反対する人はいないと思います。対象者の生活の中、癒しや愛情のシンボルを生むお手伝いをする 것도作業療法だと信じています。

展示では「押し花」の実際の使い方など提示・ご説明いたします。